



統合失調症のある対象者への 作業療法の実際

特集にあたって

精神科で従事する作業療法士の多くが、統合失調症のある対象者とかかわりをもっていると思います。先達が重ねてきた統合失調症のある対象者への臨床の知は精神科作業療法の基本モデルといっても過言ではなく、多くの書籍や雑誌の特集で示されている評価・治療の枠組みや対象者へのかかわり方は、精神科で従事する作業療法士が押さえておくべき貴重な知見です。

一方で、近年では急性期での個別作業療法や作業療法士による訪問・アウトリーチ支援についてのエビデンスが示されています。また、心理教育や認知行動療法、認知機能リハビリテーションのように、国際的な治療ガイドラインで推奨されている心理社会的治療を作業療法士が実践しており、その介入効果も報告されています。

本特集では、統合失調症の治療ガイドラインで推奨されている心理社会的治療と、国内外の総説論文で示されている作業療法士の実践に関する知見を紹介します。また、各介入を作業療法士が実践するうえで必要な知識や技法、さらなる学習のための情報等について、実践と研究を重ねている作業療法士にご寄稿いただきました。日々の実践に役立てていただければ幸いです。

(森元 隆文)

企画担当

森元 隆文 (札幌医科大学, 作業療法士)

香山 明美 (東北文化学園大学, 作業療法士)

長野 敏宏 (御荘診療所, 医師)